

第2回 学習支援研究集会

2021年2月23日（火・祝） 午後1時15分～4時30分

コロナ禍のなか、「学習支援」の意味を問い返す ～教育的機能と福祉的機能の結びつき～

【開催趣旨】

新型コロナ・ウイルスの感染拡大による学校の全国一斉休校に伴い、各地の学習支援事業の多くは休業しました。また緊急事態宣言が解除され、学校再開と共に学習支援も再び活動を始めたものの、散発する感染発生と感染症第2波、第3波…といった再拡大のなか、わたしたちは、学習支援を継続するため、懸命にそのあり方や実施方法を模索し続けてきました。

コロナ禍のなか、感染予防のために日常生活の変容が求められ、あたりまえだったことがあたりまえにできなくなり、ふだんは見えていなかった日常の意味を問い返すことを多く経験しました。学習支援も同様で、学校が閉じられるなか、子どもたちにとって、学校教育とは異なる学習支援固有の教育的機能とは何かと自問し、またコロナ禍が加速させた格差、貧困の拡大は、子どもたちの家庭が抱える困難に向き合うことも含め、学習支援の地域における福祉的機能についてあらためて問うことになりました。

昨年につづき、名古屋市で開催する第2回学習支援研究集会では、名古屋市の学習支援事業（150ヶ所、定員1,800名）の実践などを基礎に、コロナ禍のなかで問われた学習支援がもつ意味を、教育的機能と福祉的機能という二つの機能に着目しながら掘り下げ、あらためて“学習支援とは”を問うことにします。

昨年度参加されていない方も参加できる内容となっております。ぜひ、ご参加ください。

なお、第2回学習支援研究集会のQRコードは、こちら（下の画像）となっております。



主 催：地域における子どもの学びの支援共同研究会
(<https://manabikodomo.jimdofree.com/>)
協 賛：特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
(一社)ぎふ学習支援ネットワーク
協 力：あいち県民教育研究所
後 援：愛知県 名古屋市 岐阜県

【開催方法】

オンライン開催（Zoom ミーティング：参加定員 100 名）です。名古屋、東海の実践をベースに、行政との懇談などを踏まえた討論をおこない、全国からのオンラインでの視聴が可能な形態で実施します。

【プログラム】（開場は午後 1 2 時 4 5 分から）

〔全体討論 1〕

- 1) 開催趣旨説明 本田 直子 さん
全体会進行役 向井 忍 さん（特定非営利活動法人地域と協同の研究センター）
- 2) 報告 1：コロナ禍と名古屋市での子どもの学習支援事業
中村 真隆 さん（名古屋市健康福祉局生活福祉部保護課）
- 3) 報告 2：コロナ禍のなかでの学習支援の模索～ 実践事例を通して
3-1) 特定非営利活動法人 こども NPO 山田 恭平 さん（こども NPO 副理事長）
3-2) 特定非営利活動法人 ポトスの部屋 山田ちづ子 さん（ポトスの部屋 代表）
- 4) コメント 1 大村 恵 さん（愛知教育大学 教授）
- 5) コメント 2 小島 俊樹 さん（日本福祉大学 学修支援コーディネーター）

〔休憩〕

6) グループ交流

〔全体討論 2〕

- 7) 「改めて、学習支援を問う」
コーディネーター 南出吉祥 さん（岐阜大学 准教授／研究会代表）

【参加費】 無料

【参加申込方法】

- 1) HP「第 2 回学習支援研究集会」（1 ページの QR コードから直接アクセスできます）のページ下にあるフォームを記入していただき、「申し込みボタン」で送信をお願いします。
- 2) 参加申込フォームの記入・送信が確認できた方に、
2 月 22 日(月)までに、報告資料のデータと Zoom ミーティングの招待メールを送信します。

【お問い合わせ先】

地域における子どもの学びの支援に関する共同研究会 事務局

E-MAIL：kodomomanabi2018@gmail.com